

事務事業評価シート

(評価対象年度：平成30年度)

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名		超広域観光圏創出事業					②事業番号		3425		
③事業類型		3. 政策推進事業			④開始年度		平成 27 年度	⑤終了予定年度		令和 1 年度	設定なし
⑥根拠法令等		法令	条例	規則	要綱	○計画等		その他	法令等の名称 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金 (先行型)実施計画		
⑦実施手法		直営	全部委託	○一部委託		補助・負担		その他			
⑧関連予算科目コード			款	6		項	1		目	5	
⑨担当部名			⑩担当課名					会計		一般会計	
市民生活環境部			産業観光課								

2. 事務事業の現状把握【DO】

〔1〕事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)	対象指標(対象者数を表す指標)	単位
① 市民	① 人口	人
②	②	
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)	活動指標(活動の量を表す指標)	単位
和歌山県田辺市・奈良県十津川村と連携し、関西国際空港から紀伊半島への観光ルートを創出し、誘客を図るため、共同でPR活動を行っている。	① イベント回数	回
	② パンフレット等作成	種類
	③ DVD等映像資料作成	種類
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)	成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
関西国際空港から泉南市を経由し、日本有数の観光地である熊野地方へ向かう観光ルートを創出することで、泉南市の観光交流人口の増加を図る。	① 泉南市における休日滞在人口	人
	計算式 土日祝日に2時間以上滞在した人口	
	② 計算式	
	③ 計算式	
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)	総合計画体系上の位置付け	
超広域で観光振興を図り、インバウンドをはじめとする観光客が増加し、地域資源を活かしたにぎわいと交流が生まれる。	政策(章)	3 産業の活力が増し、にぎわいと交流が生まれるまち
その他の体系上の位置付け (3-4-2-1):観光資源・ルートの整備	施策大(節)	4 豊かな地域資源を有効に活かし、さまざまな人々が行き交う観光・交流のまちをめざします
	施策中	1 観光機能・体制の充実
	施策小	4 広域観光の推進

〔2〕各種指標値、事業費の推移

	指標名	単位	H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	
対象指標①	人口	人	63,125	62,549	61,984	—	—	指標値の推移における 特殊要因などの説明
対象指標②								
活動指標①	イベント回数	回	2	3	3	3	—	
活動指標②	パンフレット等作成	種類	0	0	1	1	—	
活動指標③	DVD等映像資料作成	種類	0	0	0	0	—	
成果指標①	泉南市における休日滞在人口	人	130,000	130,000	130,000	—	—	地域経済分析システムによる。
成果指標②								
成果指標③								
事業費	投入人員	人	0.26	0.23	0.25	0.25	—	
	正職員	人	0.25	0.39	0.21	0.20	—	
	任期付職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00	—	事業費などの推移における 特殊要因などの説明
	臨時職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00	—	
	事業費	千円	2,896	3,087	2,716	2,683	—	
	人件費(投入人員*単価)	千円	300	300	300	300	—	
	直接事業費	千円	3,196	3,387	3,016	2,983	—	
	総事業費	千円	0	0	0	0	—	—
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	—	
	府支出金	千円	0	0	0	0	—	
	受益者負担金	千円	0	0	0	0	—	
	その他特定財源	千円	0	0	0	0	—	
	一般財源	千円	3,196	3,387	3,016	2,983	—	

〔3〕事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	地方創生事業の一環として、超広域で観光PRを行うことで田辺市、十津川村と合意、関空から紀伊半島への観光ルートを共同で創出することとなった。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	日本への海外からの観光客が増加傾向にある。今後、東京オリンピック、WMG 2021、大阪万博などの国際的なイベントの実施により、この傾向に拍車がかかるものと思われる。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	—

3. 事務事業の評価【CHECK】

[1]目的妥当性(必要性)			A.高い	B.やや高い	C.やや低い	D.低い	[1]の評価	A
評価項目		評価及び理由・説明等						
①事務事業の意図すること(目的)は、上位施策(施策小)の達成に貢献しますか。		ア. する イ. ある程度 ウ. しない	和歌山県田辺市、奈良県十津川村、大阪府泉南市で府県を跨いだ観光圏を創出する。					
②税金を使って達成する目的ですか。 (市が関与する必要がありますか、市民(特に納税者)の納得が得られますか。民間に類似サービスはありませんか。)		ア. はい イ. ある程度 ウ. いいえ	閑空から紀伊半島へ人の流れをつくることで、泉南市への観光客の誘客が図れ、にぎわいが創出でき、市が連携して行うべき事業である。					
③対象範囲、単価、事業費規模は市民のニーズや社会環境に合っていますか。 (他団体と比較してどうですか。)		ア. 合っている イ. ある程度 ウ. いない	閑空から超広域での連携は、今後、観光施策の一つの主軸となる観光施策である。					
④事務事業を休止・廃止した場合、市民生活(あるいは上位施策)への影響はありますか、ある場合それは大きいですか。		ア. 影響がある イ. ある程度 ウ. ない	観光立国を標榜する国の施策と合致する事業であり、外国人観光客の誘客等、新しい交流が生まれる。					

[2]有効性			A.高い	B.やや高い	C.やや低い	D.低い	[2]の評価	A
⑤期待どおりの成果が得られていますか。		ア. 得られている イ. ある程度 ウ. いない	超広域の連携により、新たな観光ルートの創出に寄与できた。					
⑥今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。 (事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができませんか。)		ア. ある イ. ない	継続的に連携を図り、共同PRなどを行うことで、成果の向上。					
⑦庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できませんか。		ア. 類似なし イ. できる ウ. できない	—					

[3]効率性			A.高い	B.やや高い	C.やや低い	D.低い	[3]の評価	A
⑧成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費+人件費)を削減する手法はありませんか。 (業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などはできませんか。)		ア. ある イ. ない	—					
⑨受益者負担の適正化余地はありませんか。 (歳入確保はできませんか。)		ア. ある イ. ない	—					

4. 総合評価

総合評価	評価(A~D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理	A: 現状のまま事業を進めることが適当 B: 事業の進め方に改善が必要 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休止・廃止の検討が必要
	A	超広域で取り組む事業であり、今後とも連携を図っていく。	

5. 改革、改善案【ACTION】

＜今後の方向性＞	
ウ	ア. 現状のまま継続 イ. 見直しのうえで継続 ウ. 終了 エ. 休止 オ. 廃止 (1 年まで) (年から) (年から) ↓ ＜今後の展開方針＞ a. 重点化する(集中的なコスト投入) b. 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える) c. 効率化する(コストを下げる) d. 簡素化する(規模を縮小する) e. 統合する(他の事務事業と統合する)
①改革、改善の具体案、実施年度など	本事業は平成27年度から5年間連携を行い、令和1年度末には一定の成果を上げ、次年度以降の事業の在り方を検討していく。
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策	—